



## 問 燃えるごみの出し方、解決策は

### 答 相談者に丁寧に個別対応している

**問** 「自治会に入らなければごみを出させない」「自治会を抜ければごみを出させない」という班はどのくらいあると村は把握しているか。また、解決のためのどんなアイデアを提案しているか。

**答** ごみ集積所の設置管理運営は住民にお願いしているので、村では実態を把握していません。また、村から自治会などに提案するのは難しいが、相談者には10世帯以上まとまれば集積所の新規設置ができることや近隣の別の集積所の案内をしている。



阿部 功志 議員



自治会加入に関係なくごみが出せる集積所(百塚原第一班)

**問** 自治会加入がごみ集積所利用の条件ではないことをまず広報する。そして自治会に入っていないだけでも集積所を利用できる班が村内にいくつもある。そこは、利用の条件として集積所の清掃当番をしたり、適正な管理費を負担したりして円滑にごみを出せている。こういうことを班の責任者などに広く伝えては、と提案する。出させないのは村八分では。

**答** ごみ収集所独自の運営ルールなどに関するところのため、村が関与することは難しい。

## 問 気軽に足が運べるコミセンに

### 答 具体的な取り組みを進めたい

**問** コミセンは「貸館施設」であり事前予約を基本とするが、住民がより気軽に足を運べる施設であるべきと考えるが。

**答** コミセンの設置目的である地域住民の交流や地域活動の推進を図る観点から、住民が気軽に来館し、利用できることは重要である。今後は、気軽に足を運べるよう取り組みを進めていきたい。

**問** コミセンのロビーに子どもたちが学習や読書、ゲームなどができるようなレイアウトに変更する。あるいは、コミセンの和室やホー



新政とうかい 越智 辰哉 議員



コミセン和室での母と子のサロン(村ホームページから引用)

ルを子育て世帯に限定して、予約フリーで月1回程度開放するなど取り組みを実施してはどうか。

**答** いずれの案も気軽に足を運べる有効な取り組みであり、子どもの居場所づくりや子育て支援にもつながるものである。また、運用上の改善で可能な取り組みでもあり、今後、施設ごとの予約状況と利用形態、施設形状といった特性を踏まえながら、取り組んでいきたい。